

1. 活動報告（事務局 記）

ー9月5日（日）①エコアップ：田んぼ内コナギの草取り・池のオオカナダモ間引き

②周辺の草刈：今季最後と思われるビオトープ全般の草刈

③以前切取った木々とスゲ草の焼却処分

会員20名と工藤ジュニア兄妹、計22名の参加で残暑厳しい中でしたが多人数で作業もはかどりました。参加された皆様、暑い中お疲れさまでした。

ー9月18日（土）大人の観察会「秋の昆虫」

① ウッドハンズ社より STIHL 製チェーンソーが、内富社長より今井会長に寄贈されました。山口県内の環境ボランティア10団体対象に贈呈が有り、当会が一台受領しました。

②大人の観察会「秋の昆虫」は松原会員講師でバッタ、イナゴ、キリギリス、コオロギ、その他を探し捕獲し観察しました。

会員14名、工藤兄妹、計16名 ほか一般見学者4名のご婦人も参画され、充実した観察会になりました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

予定者はありません

◎ 行事

ー10月 3日（日）維持活動（特に草刈とエコアップ）

ー10月17日（日）観察会（どんぐり拾い、宇部市地球温暖化対策ネットワークと共催）

3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

9月18日

窪田淑子 はじめてきました。自然がいっぱいで、何よりの宝物の里これから何度も訪れたいものです。

吉岡夢子 楽しく勉強をしました。

金重忍 また来たいです。

坂田民枝 私も何度も来ます。よろしく

4. 会員の声 「二俣瀬木田の古城跡探索」part-3（原田 満洲夫 記）

われわれ【ロマン古城探策会】は「山口風土誌」「防長兩國城跡表」「防長埋もれた古城」「もりのしげり」等々現在4つの文献から確認が取れた事は108号で報告したが、肝心の場所の特定が今一つ前に進まない。木田日吉神社の裏山が山の形や傾斜度から一番と睨んでいるが、この地の名称が齒染木（しだき）に似たものであればと思ひ登記簿を確認すると「三王坂」となっていて全く似てもいない。

今年は暑さ厳しく、さらに探求が出来ず現在にいたっている。秋からは今年中にかけて、三王坂から北に向かって厚東川ダム辺りまで尾根を縦走し見つけ出したい。ひょっとして三王坂より500m北にある、金毘羅様の祠のところがそれらしく有る。あれでも礎石、石垣跡、兵糧倉台地が見つかるのでは？非常に楽しみである。

「里山自然観察隊の活動再開を願って」 （工藤祐子 記）

観察隊の活動で一番楽しかった事は何だった？と子供たちに聞いてみたところ、小5の息子と小3の娘は、全部楽しい！！と声をそろえて言い、中2の息子からも、厚東川でうなぎを見たこと、稲刈りがうまくなったこと、毎年、最後に餅つきがあったこと、と小学校低学年の子のような答えが返ってきた。感心するような言葉を期待しましたが、子供達が単純に全部楽しいと言うのがよくわかる。母も、全部楽しい！！最近では、小3の娘もエコアップの意味がわかったようで、池に入ってオオカナダモの駆除を楽しそうにやっている。自分のできる仕事をみつけることができてよかったと思います。私としては、観察に来られたクラブの子供達にも、簡単なエコアップを体験して欲しいのですが...

観察隊の活動休止は、とても残念です。中2の息子が、観察隊で、植物や昆虫など、自然に覚えたから理科が得意な教科だったと言っていました。このまま、観察隊が続いていたら 隊員の中から、理科の先生や昆虫博士が誕生していたかもしれないのに... ああ残念でたまらない...

5. 大人の観察会 「初秋の昆虫」 天候：晴れ （松原 吉雄 記）

今年度の新企画メニュー「おとなの観察会」も、今月で6回目。「初秋の昆虫」と題して観察会を行なった。ウッドハンズ社によるチェンソーの贈呈式の後、観察会は10時近くにスタートした。管会員がお休みのためトンボ類の観察は諦め、バッタの仲間を中心にビオトープ内に限って観察することとした。スズメバチに注意したいことなどの簡単なオリエンテーションの後、東屋を出発し、彼岸の入りが間近というのに真夏を思わせる天気のもと、思い思いに採集・観察していただいた。私は、最近いろんな所で見掛けなくなったと感じている“コバネイナゴ”をターゲットにした。

11時過ぎに東屋に戻り、採集した虫たちの同定と観察を行なった。参加人数が多くなかったことが幸いしてか、質問が相次いだ。

- ① ・バッタとイナゴを見分けるポイントは？
 - ② バッタ類とキリギリス類の違いは？
 - ③ イナゴの足先（足裏）はバッタのそれに比べて大きい（幅広い）のはなぜ？
 - ④ ケラとは、あのオケラのこと？
- などなど。

コバネイナゴらしき虫を採り損ねてしまい、ハネナガイナゴばかりが目立つ観察会だった。心配していたスズメバチとは私は出会わなかったが、厳しい残暑が続いているからなのだろうか？この分だと10月11月の活動日・観察会の時には要注意！！。

残暑が長引いているとはいっても、キリギリスの鳴き声が聞けず季節を惜しむかのようなツクツクボウシの鳴き声に、着実に季節が移ろいでいることを感じた一日だった。ご参加くださった皆様、ありがとうございました。

この観察会で確認（採集または視認）できた昆虫たち24種は、次の通りです。

バッタ目（13種）

バッタ類：イボバッタ、オンブバッタ、クルマバッタモドキ、ショウリョウバッタ、ツチイナゴ、トノサマバッタ、ハネナガイナゴ

キリギリス類：ウスイロササキリ、オナガササキリ、ササキリの1種、キリギリス、クビキリギリス

コオロギ類：エンマコオロギ

カマキリ目（1種）：オオカマキリ

チョウ目（10種）：アゲハチョウ（ナミアゲハ）、ウラギンシジミ、キアゲハ、キタキチョウ、コムシジ、ツマグロヒョウモン、ナガサキアゲハ、ヒメウラナミジャノメ、モンシロチョウ、ヤマトシジミ

6. ビオトープ関連（ビオトープのトンボたち）（管 哲郎 記）

（28）アキアカネ（トンボ科、アカネ属）*Sympetrum frequens*(Selys)

日本の代表的なアカトンボですが、山口県ではナツアカネのほうが圧倒的に多く、マユタテアカネも同じように多くて本種はあまり多く見かけられなくなりました。平地、低山地の水田を主な生息地としているので、水田の衰退と共に数が減少しているのかもしれませんが、アキアカネはやはり少数派になっているようです。

5月下旬より羽化が始まり6月に羽化の最盛期を迎えます、羽化したばかりの未熟個体は森の中に姿を消し、夏の間は高い山の山頂付近に登り成長し、秋になり成熟すると集団で山を降り、やがてまた水田に戻り交尾産卵し一生を終えるようです。秋深くなり稲刈りの終わった水気の多い水田や水溜りでは、ナツアカネに混じって盛んに連結打水産卵や泥水産卵する本種がみられると思います。

腹長は24～28mmで、雄の胸は赤くならず腹だけ赤くなります。雌は胸、腹とも茶褐色で、たまに腹の背面が赤くなる個体も見られます。農道や林道に突き出た枯れ枝や、葉の落ちた柿木、梅の木など割と日当たりの良い枝先に休止しているのでよく観察すれば容易に見つかります、ナツアカネは顔、胸、腹すべて赤色なので区別出来やすいですし、マユタテアカネは地面に近く少し薄暗い場所にいたりしますので図鑑を参考にして同定してみてください。



アキアカネ（♂）



アキアカネ（♀）



アキアカネ（♀）背面赤色型



ジョロウグモに捕獲されたアキアカネ（♀）
クモはトンボの天敵、常に危険がいっぱい

7. 会よりの連絡事項 （事務局より）

雨が降らず、天つつみの水は枯渇寸前、水系の田んぼ優先の水使用のため、ビオトープの水レベルを最低限にしてなんとか水棲動物の死滅を防止してきました。水車も停止し完全乾燥の状態になっていました。

幸い23日「秋分の日」にビオトープ周辺局部的に雨が降り、そのため田んぼの方は不要となり、川の水も増え一気に回復となりました。一安心です。来年の田植え前まで独断で水管理が出来るというものです。

8. 編集後記

今年は、猛暑に加え雨が降らないという、とんでもない夏でした。9月に入っても夏のような日が続いています。防府で井戸調査の仕事をしています。日照りのため、浅井戸は軒並み水位が下がり使い物になりません。浅井戸を畑の用水に使っておられる農家の方が、畑に送る水がないと嘆いておられました。一方、深井戸では日照りの影響は無いようです。

深井戸の調査では井戸の能力をはかるため、付近の水たまりや水路に井戸水を30分間放水し続けます。ある水たまりでは、放水前には見かけなかったイモリが姿を現し、数えると十匹以上にもなっていました。この連中も、新鮮な水に飢えていたと考えるとかわいそうになります。

我がビオトープも同様に、川の水量は激減し、したがって水路の水は止められています。植物は何とかなりそうですが、水生動物は大変です。草原ゾーンの水路にいたメダカや川ニナの大部分は干物になったようです。このまま雨が降らないと、水を張った田んぼや湿地帯では、犠牲者が増えそうです。私に数百万の現金があれば、井戸を掘って安定して水を供給することができるのに！金のない私としては、当地に雨を降らせてくれと、秋雨前線にお願いするしかありません。

天気予報では、会報が出る頃には雨が降るようになっていきます。神様、50mm以上の雨と涼しさをお願いします。

（ 前田 歳朗 記 ）

例年になく暑い夏がまだ終わらず彼岸を迎えています。はじめは絶滅危惧種がと喜んでいた植物も取っても取っても広がり続けるすごい繁殖力。長い間眠っていたと思われるが一旦目を覚ますと。このまま手が入らなければこれらの植物達はこうなっているのか、作業をしながら来年3月にはどんな結果が待っているのか気になって仕方のないこの頃です。

（ 松本 フデ子 記 ）